

留学生と創る「錦市場：京の食文化読本」制作プロジェクト

1 目的・概要

【概要】

錦市場をフィールドとして伝統的な「京の食文化」が「観光産業」など現代的なニーズとどのように折り合いをつけながら伝統継承しているのかを、海外留学生と共に調べ考えた後、留学生とのディスカッションなどを通じて様々な角度から現代の「京の食文化」を考察し、その内容を折込みながら、留学生に対する日本文化の副教材を留学生と共に作成し、最終的にその教材を活用して留学生向けに授業を行いました。



【目的】

春学期に私たちは「私たち自身が日本の食文化を再考しつつ、留学生や錦市場の人たちの生の声をもとに、留学生が主体的に考えられるような学生視点での読本を作り、「知る」の一步先へいざなう。」ということをこのプロジェクトの目的と決めました。

Annual Schedule

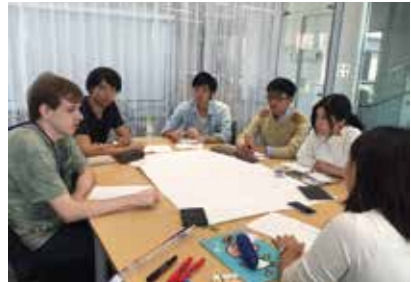
2016年	4月	役割決め、目的決めのグループワーク
	5月	ゲストスピーカー 【湯波吉 越智元三さん・元之さん】 による講演 各グループ目的についてのプレゼン
	6月	目的決定 3チーム（留学生・錦市場・読本）に分ける 留学生との錦市場ツアー
	7月	留学生との錦市場ツアー、春学期成果報告会
	8月	各自地元や旅先での市場見学・調査
	9月	各自地元や旅先での市場見学・調査
	10月	錦市場での取材、留学生との合宿
	11月	錦市場での取材 読本製作開始 読本を用いた授業の実施
	12月	読本最終調整・入稿
2017年	1月	読本を用いた授業の実施、秋学期成果報告会



2 成果達成度

【春学期】

春学期は秋学期に実際に読本を作っていく上で必要な土台作りとしての期間でした。そのために行ったこととしては以下の三点が挙げられます。一点目は目的意識の形成で、一年間プロジェクトを続けていく上で、メンバー全員が共通の認識をもつことは非常に重要であると考え、メンバー間で話し合いを重ねるなどここに多くの時間を割きました。二点目は錦市場の老舗である湯波吉さんからお話を聴くことで錦市場の歴史や現状、そして湯葉についての知識を得たことです。これにより自分たちのプロジェクトのフィールドである錦市場について知ることができ、プロジェクトのイメージが具体的になりました。三点目は春学期の中心的な活動といえる留学生を伴った錦市場ツアーの実施です。これに際し、メンバーを留学生を集めたり連絡をとる留学生チーム、錦市場への取材の申し込みや店舗の選定などをおこなう錦市場チーム、読本に必要な内容や構成を中心となって考える読本チームの3チームに分けツアーの実施に向けそれぞれ動きました。実施の目的は留学生の反応をみることで、読本に求められている内容を探ること、そして錦市場の方とのつながりをつくることでした。ツアーや事後アンケートを通じて読本に求められる内容のヒントがつかむことができたほか、今後の取材における課題を発見できたりと、得たものは多かったように思います。



【秋学期】

秋学期からは実際に読本制作に取り組み始めました。読本の内容をおおまかに食材についての部分と錦市場の現状とこれからについての議論の部分に分け、それぞれ必要な情報を集めるため、実際に錦市場の様々なお店に取材をしました。取材と並行して読本の各項目の内容をより細かく決め、一度の取材で足りなかった情報については再度お店を尋ねるなど地道な取材を読本制作が本格化した12月に



かけて重ねました。10月末には留学生と一泊二日の

合宿を行い、一日目は京都の食文化を中心に、二日目は錦市場の観光化に付随する問題について議論しました。アジアやヨーロッパといった様々な国々から来た留学生と意見を交わすことは刺激的であり、例えば日本では行儀が良くないとされる食べ歩きが外国ではそれほど問題視されないといった、日本人だけで話していたのでは固定化してしまう意見も違う見方ができるということに気付かされたりと爽りの多い時間でした。また実際に留学生の授業内の時間を使わせていただき、読本の議論の部分を用いてディスカッションをしました。こうした取材や合宿、授業での経験をもとに11月から各自分担して原稿を書き始め、12月末に入稿できました。

3 プロジェクトを通じて



現在錦市場は観光地として非常に有名になっており、プロジェクト開始時はその姿しか知りませんでした。しかし何度も何度も取材に通ううちに、今は姿が見えなくなりつつある本来の「京の台所」としての姿が、そこで脈々と受け継がれ、大切にされてきた信頼関係を何よりも重んじるといった市場の伝統や「ほんまもん」へのこだわりについて錦市場のお店の方々から伺ううちに、血の通ったものとして浮かび上がってきました。

そうして学んだことや感じたことを読本を通して留学生に伝えるため、このプロジェクトは活動してきました。その過程で授業や合宿内において実際に留学生と意見を交わすことは、自分たちにはない観点からの私たちの日本の食文化に対する再考につながり興味深かったです。「食」という人が生きていく上で必要不可欠な営みにはその国の文化が色濃く表れると思います。自国の食文化について学ぶことは、これからの人生において必ずプロジェクトメンバーの糧となることでしょう。



編集後記

この1年間、時には上手く進まないこともありましたがメンバー全員で協力して春学期に決めた目的に沿って活動してきました。何度も錦市場に足を運んだり、留学生を巻き込んで活動をしたり、普段の大学生活では出来ない経験をすることができました。錦市場の方々、留学生の皆、日本語・日本文化教育センターの先生方、教務課の方々、遠藤さん、高岸先生、SAの藪さんなど多くの方々の支えがあったからこそ、私たちの活動は無事に終えることができました。本当にありがとうございました。この読本が留学生にとって新たな興味へのきっかけになれば嬉しいです。

プロジェクトメンバー

石井 雅人(文2) 夏明 恵実(文2) 鄭 チョロン(文3) 金 秀燕(文3) 三好 純平(文3) 辰巳 雄一朗(社会2)
河方 美袖(法2) 浅野 恭平(経済3) 藤川 健太郎(経済3) 河崎 涼太(グローバル地域文化2)
北尾 麻有(グローバル地域文化2) 清 絢菜(グローバル地域文化2) 松田 ゆきの(グローバル地域文化2)
大沼 奈都子(グローバル地域文化2) 吉岡 瑞月(グローバル地域文化2) 藪 聡子(SA)

プロジェクト活動 アンケート集計結果

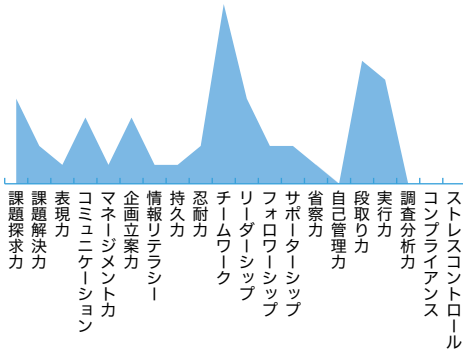
授業開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

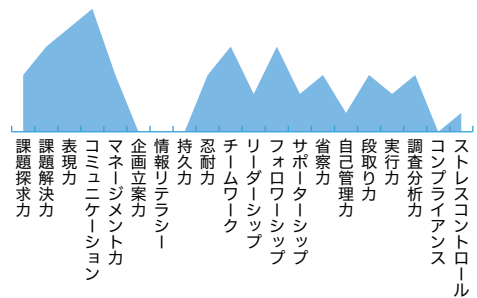


春学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

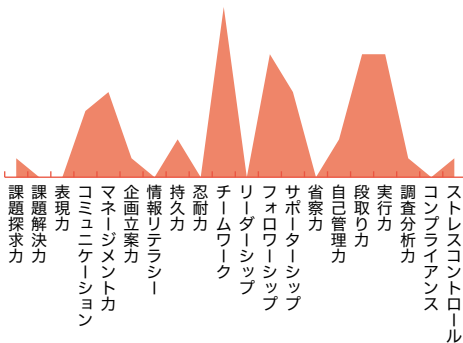


Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい



授業終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

